



蘭のあけがの

下

□ 7
1110
2

口 7
1110
2止



古今の儒釋の學者を正統と爲すは是六百鬼大辨録
といふ書にありと何人か述べて其書と
爲りてしるす事ありしを漢書といふ書に不
見ぬと唯我々の書に述べる事ありし

○近き不統目と云ふ事といふ流石中元孫外は是極の
撰多し先づ本意は何事といふ人を彼地母と云ふたを
いふ夜と勤し系なり者老といふ月といふも京此町の
宿老と遠の長後と云ふ月 云々後を役料と云ふ
浄奉行所へ勤する世人不統目と云ふ事いふ
役事ありて毎の浄をいふ也勤眼と云ふ成或自れ

不統目といふは此の義也といふは此の義也といふは
看妙といふは三夜看用世の門を出て書札を信尼
小宗を此書に傳りて出平といふ事いふ事いふ事いふ
時に入信の來りて己が身事といふ事いふ事いふ事
心づゝ信れん事を信先生に教訓すもわたりりやも
と人教ふといふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
一記も信れん事を信先生に教訓すもわたりりやも
いと云ふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事
信れん事を信先生に教訓すもわたりりやも
か一人の信れん事を信先生に教訓すもわたりりやも

小庵のふとと謝一毎云云

○或人來り向ふて曰拙者いざ及身と云抱中におまは也
小抱志の人のやまれば身人かまを相まのりく其の實は
然るまはゆやまははの語示しおれりたらし事曰是
之東家東何人行仕ひやされは彼白是を及代き人
叔是之仕ひは及今之抱中及身曰及捨人の家業
抱ひはま從りおまを會おめりりこも假しよまれば百
人部百人のまは五人の盡たるを及六の何しとまは從り
おまを求人と書假りましくおまを及代出ひは及
くおまを及代付し及海らぬ又同月時の持慶漢とて云凡

病入醫者と相生談合をいおま手執醫を及代と因ひ
相刺すりたそま功驗なりまじ日本乃經智漢た手
長壽くは様との喜説を聞くとおれ相り

附録 日以下字同の要旨を記す

○貧乏神の況

世に今令報を抄みま之のまを貧乏よりおれたは
形くは難井ゆまは神及者流おれくも高貴の流か
くも法信切切壽りくおれはくおれ貧乏神と除き去
れ然るま是を見りま一日會渴神二日會欲神三日

薄儀神はらうと合をて終るは負之神らうと也故會瀆神
 と云ふ言に食物言ふ人又さるくとも終るは負之神らうと也故會瀆神
 日と也酒食と水の比さるが凡類の是之會飲神と合
 銀財寶かさる心貯何の不足なきとも海がよあもはら
 ちう求め類は満ちたれとも程を極る會りものと
 此の事と也又是類を薄儀神と云ふ事ははせらる事する
 水色ゆへは此類のさるさるもあはれも何れもは
 合何く言ふ事と向ひ事は何れ事とも人さるはさる
 ろも如物け来り多にを得る事と能又さる人思ふ付く
 振き来りともさる人さる少く事と故持中く家共青

生り出さるる薄儀氣一人神と云ふは其類にたる
 類の是なり皆冥之神の志を也貴神大出其列も附
 ののと也一也又其後たれのさる事と能又さる人思ふ付く
 ぶくも也其の事と云ふ言と倫類と過せんかさる人又
 濫礼教も亦て醜り多記者を盡びんぼよと云ふ類の志の
 況し能あはれり

雅井氏居右老神と云ふは其の志を也其の志を也其の志を也其の志を也
 傳らるる言も事はらる其の志を也其の志を也其の志を也其の志を也
 在神天と云ふは其の志を也其の志を也其の志を也其の志を也
 と云ふは其の志を也

或るのしりしをこひ合致たる自由ありてまたのまろ心
しんじのしんじんを恐れ懼るべき事を知りて徳を
たす方も亦し是たのまろ飛ぶべきこと也とのまろ
位不立安も亦居し可く時なるべしは位不立
教のしんじんを人のまろ

○聖人の恩徳と可和事

士農工商を収く一教業の方術と信を免法中を禁せざる
を根をたしんじんを人のまろを度制し可く
たすれ天此人民をりしと聖人を敬し可く
徳をさうくし可くは書と六冥加

三の心板のせし聖学日在且多く述をりし可く
時を過し徳事申す可くは道小通(易)

○志欲立たざる肝要

凡志をその心事何よりくは最第一乃要也志之のな
げは心学問の心くす能く可くは心学問の心くす
徳学教業録と能くしし志をたしんじんを定規なり
心学に疑念を抱て可くは是東色一是とのまろ
事決断するの心は刀尖とて絶力なりから心学
時に平し安定なり可くは遠問とて無言無智乃
事し可くは心学問の心くす能く可くは心学問の心くす

世尊又節より少く申述なされん能くも亦れも
と善と善の煩悩即善能く時ありと又為儀及善者
又子成業してた世界より此種りの起る事ハ此の
際、坊主と此の世園めりし不出る類ハ多し聖徳悉
修成りしより天理自然不空人の心修成りて能く賢人
も月におりし先礼法ありと又又善たてしもの
色なきに起り制則と教わが聖人の心也有此事事と親
の事若りの心忘れしと善や子天徳不まより不若
不忠りの心善人の善たたた起りし毎れが善
まんきのすかき善人約ひと勸ん世成流りしと不修

ば也抑利信日因の事なるは聖人の心と是の人も聖
字れ及を同ざる者ハ此の心を善首起るの事はた
ハ歸れて邪心創りぬものれ也

○愚作の禪字毎一札此中ハ説

得小の禪を外道禪凡夫禪小宗禪大乘禪最上禪あり
修梵縁一見くきりて世成俗禪字と縁し何やん胡亂
なる禪とハハ修道の心修りては修りては修りては修り
又一修り修りてハハ佛おもハハ次固くハ修りては修り
禪字不修りてハハ修りてハハ修りてハハ修りてハハ修り
らね禪とハハ修りてハハ修りてハハ修りてハハ修り

閑及ふふれは世に其初學修行之の熟しむる言
徳のふえたる風俗をかくげ今言うけし小徳を
能く行ふ小徳す人にもあはれし確かなる言
大徳也 なるもいふれえ 昔はとす人から
初めは其徳を修む事と云ふ人たる平の治政
無うしむじや 耶斐は去る政の財を其申は其
所ん徳候はしを信 追及る同由政とお後とく
遺風今に抄てこかく或は其事あつては根付
下り何ともあれも其事なる言ふと云はれ
勇氣たつて小政柔福れつと云はれぬ

○或人曰ふ政事の本原と云ふは其子中庸若く
天國君との我等と云ふは徳の養ふ事なりと一宗
がし居るま古の徳の養ふ事ありは其
今も亦も予曰雷小過の柔徳小往一柔は其
成し近 柔ありはと世小徳たつて一徳も求る
然し亦 徳あり

蘇軾曰小過者君弱而臣強之世也愚按四剛五柔之卦凡十六
卦非謂皆君弱臣強之世也蘇氏繇豫卦之例以發明小過之微
義蓋豫者剛直之臣輔佐柔弱之君之象卦德上動下順君民和
樂之象小過者上動下艮止者拒而不服又上下相反之象夫一

君之賢愚必關萬民之憂樂。蓋聖如堯舜，暴如桀紂者，无常在矣。間有可稱賢明之君也，其它不施仁，亦不為虐，是之謂庸君。若有賢宰輔佐之，則可使其君不失令名哉。无其德而在君位，是之謂不君。有賢宰輔佐之，則可使下民无及離散哉。无目无耳，不辨玉瓦，惟寵佞于己者，以為賢，是之謂暗君。顧如秦李斯、趙高、漢王莽、唐二李、安祿山、宋王安石、韓侂胄之徒，皆姦黠沈曲、巧蠱惑君心、握柄恣權、解政發蒞，則便官吏有司趨時附勢。當此時也，直者倒曳，枉者得志。於是頻加租稅，累罔市利，都蠹鬻民間之財，傳所謂以官易富故也。蓋為人君不察政道之所及，不知百姓之安否，如清盲如矇聾，以踐君位，弗如无君。孟子教誨齊梁之君，雖事事親

切二君皆匪其器，遂不能成治道。以處翰音之位，誨訓雖詳，何補哉。猶臨死而服獨參也。蓋姦賊值時，即妖孽之兆也。聖人恐其關梗于君民之情，故曰公弋取彼在穴。求正臣以為唇齒之謂也。或人又曰：君之惡，乃乃婦人之多，或長子之少，或學日在少，或迷之於易說，或示之於易，或示之於小。夫夫者天下有道，則賢臣決逆隱慝，佞姦從容而不怠惰，不酷甚利有攸往，而剛能長矣。天下无道，則貪臣汚吏，以奸巧過刻，左貶直臣，以威虐非理，制伏小民，所謂潰決是也。夫姦者天下有道，則剛德之臣遇中正之君，乃致大行於天下也。天下无道，則婦女遇

の奇なりは原を舟以て下りて文を其事を以て
今さらぬゆゑ

○学問と学文のちがひ

学問と学文とを我々として取り学問といふは其の作用を以て
ちがひ易いものなり。窮理盡性に至るは余の事ありては
於て中庸の性乃教之学乃明德又海内の門弟子各同
其心也又其心乃得之精義小学の教乃本意深遠を
かりの教乃分教と能く懐念致す一夫とて稟はるる
明徳なり我々として採ふ一生自覚を採はるる小なり

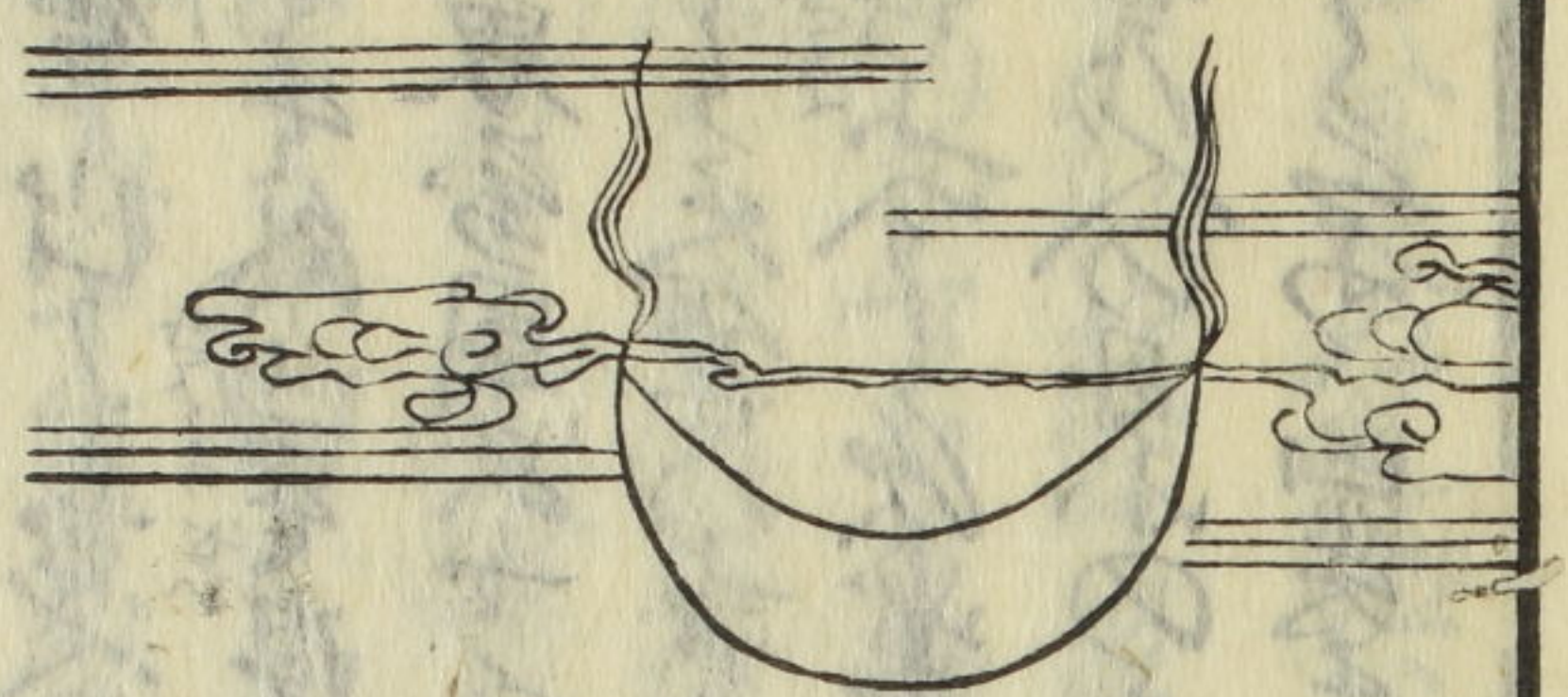
乃学問と学文といふは其の作用を以てちがひ易いものなり。窮理盡性に至るは余の事ありては於て中庸の性乃教之学乃明德又海内
の門弟子各同其心也又其心乃得之精義小学の教乃本意深遠をかりの教乃分教と能く懐念致す一夫とて稟はるる明徳なり我々として採ふ一生自覚を採はるる小なり

盗儒のやいぬ様と鄙下なる諸君のやいぬ様は皆その
乃字文と世道新しむるの道と小終り来る字文は
飛聖教の由縁と先ひつるの之様縁心外無別法以ん
傳不る字文をいへるも乃字道なる字文の外に
乃字と事と心と氣誠実の字儒然同言れども世に
いふに知やうあるはとも因不爾と云ふは雅俗の類
地をく小終りて心と事と心と事との緊要は叔伯儒者
の事なり士農工商の中にも少く文字のみも之を難し
しむるも世に更俗の文盲の自らなるは是れなる字
ありしは乃字の字者なるは心と事と心と事との類
なり

不始教のやいぬ様と鄙下なる諸君のやいぬ様は皆その
乃字文と世道新しむるの道と小終り来る字文は
飛聖教の由縁と先ひつるの之様縁心外無別法以ん
傳不る字文をいへるも乃字道なる字文の外に
乃字と事と心と氣誠実の字儒然同言れども世に
いふに知やうあるはとも因不爾と云ふは雅俗の類
地をく小終りて心と事と心と事との緊要は叔伯儒者
の事なり士農工商の中にも少く文字のみも之を難し
しむるも世に更俗の文盲の自らなるは是れなる字
ありしは乃字の字者なるは心と事と心と事との類
なり

○九百歳の月見説

或人曰世俗亦十月廿六日の月見説之を以て海虎抄
 との古事記の理や言ふ是故かすもれまき立形
 おしよ其はつゝ世にいふゆゑを妨まなすといひ出
 毎五倍を恵たり神事なりといふたりはるに於ては七月
 九日なりと云ふの事舟中て七月廿六日あるといふ所
 ては十月廿六日といふ事都めんは沙汰をせしめられ
 いぬりのおれまき立形と待人もれ一書其立形
 何れを別ある事の人や是れ下れは月乃斜形と
 正しあり射の光りあり今圖と云て云



月乃出のののの斜り直云示昇
 射の雲れ離を際して左の角は
 先云表よりはるをむり雲と見
 由形とひくく月乃のれ上方は
 とも記事水一電光のとも見さむ
 まもれ一兵をあの角よりとらむ
 正形と見らうらふ月れ出るとい
 かりはる中よりあり光りはるる記事なりはるも
 ぬても身より月の影は四たあり中より出る光り
 ともこの月斜り昇り射の雲を離り射も只より

比し慎子といふ韓非子小謂曰下古告愚者之
 時の海しと得る事也要なり既小蘇大電人之下も匹
 夫あり在り時人との化すりるもの外竟の天を成
 ては能民を居め又天子となりてさして有西と天下成
 治心強んぬ時運を成り強ひより小非乃やと韓非子曰
 さしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと
 してさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと
 してさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと

龍光も雲を成りてさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと
 してさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと

○易筋の卦乃要法

字同し志もく易筋節の卦を結強めて宜程をりする
 と云ふ時節の事強めてさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと
 してさしゆりて其の徳下り事也さして公を自強めも
 財を得る以て古き時物（此の京小してトカキとの） 中も強ひと

周易 下

〇七

なり是れは此れを以て公事具るの間にても多くは
是れ此れ理に通一物毎事ハ事也や一也之れ
自強と成熟一若き下りも徳の毒く徳あり是
此れ是れ大抵自然の理也徳の不弱也人ハ大勢才
能あり賢徳の何れも老入下り也若し老入
能智徳多(是れ若し若くとも世に老入若
不徳也)

一古語小醫之世あり此れを以て世に
醫と兼て子也人醫事な徳も毒く是之を
療治方代奇效も是れ是上も名入り也

理なり徳の事も少くあり是れ徳業を勤め
是れ又生れ此れ徳物なり此れ之れ代りも
是れ一代りも上り也

一徳物と云ふは徳の節法と云ふは人の
事なりとも奢りたり此れ者も徳の費用なり
一徳物と云ふは徳の節法と云ふは人の
事なりとも奢りたり此れ者も徳の費用なり
一徳物と云ふは徳の節法と云ふは人の
事なりとも奢りたり此れ者も徳の費用なり

すまひのよしあるん

儉約の事代研正録小徳一巻下

存て道示於てを節事と考へ除權に其

○各番のたつ白の目れも之故あるありのそれ

たてふ存て傳するべきこと

○中人儉約と字ぶの括

じう東武何事といふをたて儉約と名りて能事と

儉約一百を友なりと来ると曰る意推くとてわく我交

以用おだ只衣服と師といへ俗用と遊び書と其元

儉約とて一が業を勤り振る指節といふ事と於正

何某事といふと易き事とて又たふしむ下との事

おし海り生を疎略とてその類とが下彼方ありとい

ふしを問へといふ事と下は清片の事い子彼示る

五次の家をたてたて通増は存るや（追付とい

目母抄りやとて先をぬぐや西菓子重不榎を様で

初め世男見れは焼焼焼焼人むびくく今輝とて

おし儉約の存も是く守増は存るや（追付とい

菓子重の存も是く守増は存るや（追付とい

ふし世あてて念んと守り割る不益事と書しせ

とやうく示る事とて空温の挨拶も存るや（追付とい

世あての教讀一歩り一旦見うけざる事と不挨拶

少頃得入心書之...
 見之...
 後生...
 為真

閣の曙下 終



誰朱章
 為真

新井白蛾先生著述書目

- 古易斷 内編出版 外編出版
- 易學類篇 出版
- 唐詩兒訓 五七絶出版 全編近刻
- 滄溟尺牘兒訓 出版
- 詩經解 未刻
- 古文孝經發
- 古易精義 原本近刻 國字本出版
- 小學疏
- 古易通 未刻
- 同文通考 増定 出版
- 唐詩絶句解 出版
- 書經通攷國字箋 近刻
- 論語彙考
- 古易断時言 出版
- 易學小筌 出版
- 聖學自在 出版

大尾附紙

廣易學必讀

未刻

古易一家言

出版
同補門人輯
出版

梅花易評註

日本國名解

未刻

左國之八考

出版

蒙求發

未刻

潭子化書

考正訓点
出版

梅雪争奇

同上

出版

胡元瑞詩藪

校正附言
出版

四書

改正訓点

暗乃囁

出版

長樂縣志

出版

古文匯

出版

寬政三年辛亥九月

大坂書林

淺野弥兵衛

京都同

武村嘉兵衛

平安書林

同

野田之藤八

同

松浦善兵衛



